

LOBO 調査

早期景気観測

5月分 日商調査日 5月7日～19日
当所調査日 5月7日～21日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査
5月の全産業DI ▲25・0

(前月比+0・3ポイント)

○中小企業の景況感

米国・中国などの海外経済の回復に伴い、需要増が続く半導体・電子部品関連や自動車関連の製造業・卸売業が堅調に推移した。

一方、小売業では、緊急事態宣言に伴う活動制約・客足減少とともに、前年同月の買いだめ需要の喪失の影響を受けているとの声もあり、業況が悪化した。また、宣言が発令されている地域以外においても活動縮小が発生し、外食・観光関連では業績改善への対応に苦慮している状況がうかがえる。このほか、原材料費上昇によるコスト増加が業種を問わず、広く業況の押し下げ要因となっており、中小企業の景況感は厳しい状況が続く。

※今回の景況DIは、比較対象の前年同月(2020年5月)が感染拡大により全国で緊急事態宣言が発令されていた時期であることに留意が必要。

○先行き

先行き見通しDIは、▲33・6(5月比▲8・6ポイント)。ワクチン接種拡大による感染抑制効果や、海外経済回復に伴う電子部品関連の輸出増に期待する声聞かれる。一方、変異株による感染拡大が収まらず、緊急事態宣言が延長されるなど先行き不透明感が増す中、活動制約の長期化への懸念に加え、製品・サービスの受注・売上減少による業績悪化、原材料費や燃料費の上昇による採算悪化を懸念する声は多く、先行きに対して厳しい見方が続く。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

民間工事の発注量減少により公共工事の入札事業者が増えたり、価格競争が厳しくなっている(管工事業)。鉄鋼の仕入価格が上昇しているものの、主力であるサスペンションの海外からの引き合いが伸びており、売上は改善(自動車部品製造業)。

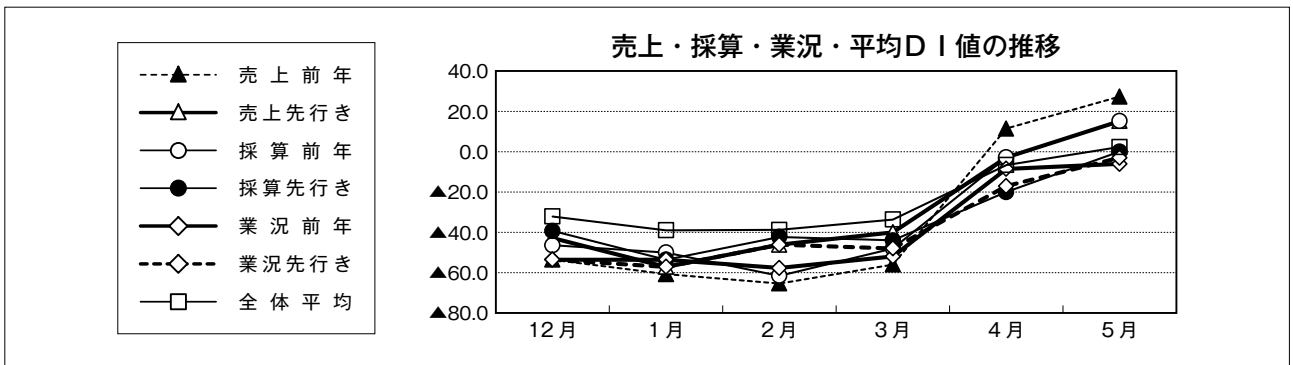
【当所調査】

当所調査「2018年11月ぶりプラス値へ」

全体平均DIは2・3で前月に比べ+9・0ポイントと好転した。項目別では、売上先行きが前月と比較して+18・1ポイント、採算先行きが+20・0ポイントと各項目において好転が目立った。しかし、前年同月比は緊急事態宣言下であり、依然として新型コロナウイルス感染の影響が続くことが見込まれる。寄せられたコメントには、「医療関係企業との取引が増加し、多忙である」「(労働者派遣業)、「不動産投資への問い合わせが増えてきている」「(不動産仲介・管理業)、などのコメントが寄せられた。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和2年		令和3年				
	5月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
売上前年	▲82.1	▲53.6	▲60.7	▲65.4	▲56.0	▲11.4	▲27.3
売上先行き	▲82.1	▲42.9	▲57.1	▲46.2	▲40.0	▲2.9	▲15.2
採算前年	▲78.6	▲46.4	▲50.0	▲61.5	▲48.0	▲2.9	▲15.2
採算先行き	▲78.6	▲39.3	▲53.6	▲42.3	▲44.0	▲20.0	▲0.0
仕入前年	▲28.6	▲28.6	▲21.4	▲26.9	▲36.0	▲28.6	▲36.4
仕入先行き	▲35.7	▲32.1	▲32.1	▲30.8	▲48.0	▲28.6	▲24.2
社員前年	▲3.6	10.7	▲3.6	0.0	16.0	20.0	21.2
社員先行き	▲7.1	7.1	▲3.6	0.0	8.0	14.3	9.1
業況前年	▲82.1	▲53.6	▲53.6	▲57.7	▲52.0	▲8.6	▲6.1
業況先行き	▲85.7	▲53.6	▲57.1	▲46.2	▲48.0	▲17.1	▲3.0
資金前年	▲57.1	▲25.0	▲39.3	▲46.2	▲24.0	▲5.7	▲3.0
資金先行き	▲57.1	▲28.6	▲35.7	▲42.3	▲32.0	▲11.4	▲6.1
全体平均	▲56.5	▲32.1	▲39.0	▲38.8	▲33.7	▲6.7	▲2.3



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。